

情報化社会の光と影に関わる見方や考え方を深める学年指導の在り方

— 一学校放送番組を活用したモラルの育成から交流学习の実践 —

羽衣学園中学校・高等学校 教諭 米田 謙三

kenzoo@cd5. so-net. ne. jp

キーワード：放送番組、ICT活用、交流学习、モラル育成

1. はじめに

高度に発達した情報化社会は、利用者により効果をもたらす光の部分と、利用者には害をもたらす影の部分がある。このように新しいメディアが独自の社会を形成しつつある一方、教育現場における情報関連科目では、これらのメディアは適切に取り上げられているだろうか？インターネットや携帯電話など日常生活と学校での生活環境の間にギャップが深まってきていることは否定できない。「情報A」の指導要領における「(4)情報機器の発達と生活の変化」の単元の中でこれらのギャップを正しく、ルール・マナー・モラルという考え方を学校放送番組と映像教材をもとに指導を行う。また、学んだことをもとに国内・国外の交流学习へとつなげる。特に新指導要領「社会と情報」の目標を意識している。

2. 授業のねらい

2.1 概要

校内での情報科の教員の連携を図り、高2全クラスで学校放送番組（NHK教育「10min. ボックス情報。」）（図1）と映像教材（CEC ネット社会の歩き方・5分でわかる情報モラル指導）をもとに指導を行う。

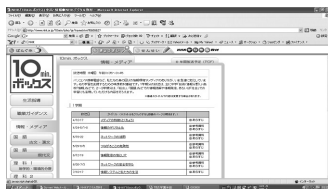


図1 NHK番組「10min. ボックス情報。」

携帯電話のモラルの講演会を保護者も巻き込んで実施する。保護者にも一部の教材を見ていただき上記内容を共有していただく。生徒には、番組から学んだことをプレゼンテーションソフトで個人またはグループで作成させる。次に海外の学校（文部科学省ユネスコスクールと連携したシンガポール、中国、アメリカ）に英語に翻訳し発信する。また6カ国の海外青年協力隊の方とのブログを立ち上げいろいろなテーマ設定し意見交換を実施する。（大学生にも授業サポートしてもらう）これらの活動を通じて日々進歩を続けるメディアに焦点をあて、通信の仕組み、電子メールやブログの仕組みなど、情報通信ネットワークの仕組みの理解を基礎知識とした上で、社会生活の中でのネットワーク利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について学習する。またその中で、今後新しいメディアとどのような関係性を持ちうるのか、マナ

ーやモラルについても考えさせたい。ただし、影にばかり焦点がいかないように情報化社会の光についてもしっかり認識できるようにする。

2.2 成果目標

本企画では、“学習目標”として以下の5項目を挙げる。

- 1) 学校放送番組や映像教材の視聴をもとに、インターネットや携帯などで身近となった情報通信ネットワークについて、その仕組みを理解する。
- 2) 学校放送番組や映像教材の視聴をもとに、現在の情報通信ネットワークを取り巻く危険や懸念などを知り、情報セキュリティの重要性を理解する。（保護者も含む）
- 3) 学校放送番組や映像教材の視聴をもとに、情報通信ネットワークを利用する上で必要となる、ルール・マナー・モラルについて理解を深める。（保護者も含む）
- 4) ネットワークリテラシーや、主体的に学ぶ意欲、問題発見・解決能力を具体的な海外との交流学习などを通じて身に付ける。
- 5) 大学の学生や外部の講師との交わりの中から、情報活用の実践力を高める。

3. 情報の授業の取組

3.1 1学期

情報機器の使い方を確実に習得し、機器に慣れよう

- ・ネットワーク利用のきまりを学習する
- ・データ集（CD-ROMなど）やインターネットなどを利用して情報を自分で収集する
- ・BBSの使い方とマナーを知る
- ・全校対象のモラルに関する講演会を実施する
- ・警視庁ビデオなどを情報の授業で学習する
- ・情報を目的に応じて検索し、収集した情報の中から目的に合った情報を選択する
- ・情報モラル指導補助教材として、Webによる提示教材や模擬体験教材、映像教材などを利用する
- ・校内でも情報モラル・情報セキュリティに関する研修などを実施する

3.2 2学期

自分達で情報を作成し、発表しよう

- ・スキャナやデジタルカメラ等の周辺装置を利用し、文章と画像等を組み合わせた資料を作成する
- ・発表資料をまとめる
- ・電子メールを利用した他校との交流活動開始する
- ・外部講師による授業を実施する
- ・交流学习の準備をする

3. 3 3学期

外部交流を盛んにしよう

- ・インターネットなどの通信を利用して情報を交換する
- ・Webページ・電子メールで情報を発信するためのマナーや個人情報、著作権の保護を再度学ぶ
(情報モラル指導補助教材として、Webによる提示教材や模擬体験教材、映像教材を利用する)
- ・画像や動画を利用して表現する活動をする
- ・TV会議を利用した他校(海外含む)との交流をする
- ・プレゼンテーションソフトを利用して発表する活動をする



図2 生徒の作品の一部

4. 交流学習

4. 1 第1ピリオド

- 1) テーマ設定のための教材学習
- 2) ソフトの事前学習
- 3) ネットワーク利用のきまりを学習(教員側も含めて) データ集(CD-ROMなど)やインターネットなどを利用して情報を自分で収集

4. 2 第2ピリオド

- 1) TV会議や掲示板を利用し、他校との交流開始(情報の発信)
- 2) 大学・産学連携
 専門家による授業: モラルの問題について
 大阪大学との連携授業: 海外の学校と交流学習



図3 外部講師の講演資料

4. 3 第3ピリオド

- 1) プレゼンテーションやリーフレットづくりの実施
 専門家による生徒向けに助言・指導(TV会議など)
- 2) 他地域(国)交流をTV会議や掲示板の具体的な活用で本格的に開始(情報の共有から活用)(写真1)
 国内: リーフレット・プレゼンの途中報告・小学生の英語のサポート・学園祭展示・地域での発表

国外: 異文化交流 北京中国人民大学附属高校訪問
 に対して3名の受け入れ(ホームステイ学びあいプログラム)

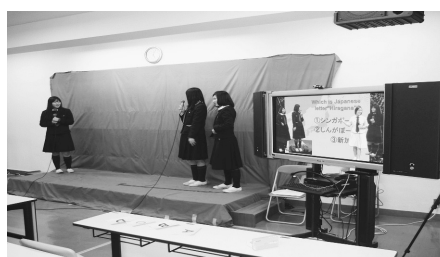


写真1 海外の学校とのTV会議

- 3) 海外研修活動 12月4日~10日
 高2全クラス オーストラリア 修学旅行
 希望者研修 12月末 ①韓国 ②台湾
 - 4) 校内・校外で現在の活動を発表(プレゼンテーション大会などで発表・評価)
- ### 4. 4 第4ピリオド
- 1) 海外の生徒との交流の継続(TV会議やメール、Webサイトの活用)海外研修活動 ドイツ・フランス訪問 交流学习(2名)3月末予定
 - 2) リーフレットづくりの完成・振り返り
 TV会議や掲示板での意見交換(情報の分析)
 - 3) 実際の活動 ボランティア活動

5. 実践の工夫

学年全体で実施するため共通のワークシートを作成し、違う教員でも同じ内容で授業を実施できるようにする。また映像教材はWeb配信を活用するため準備の手間がかからないで同じものを同じ時間で全生徒に見せることができる。(途中で止めて解説したり、家庭で繰り返し見たり、保護者にも見せたりすることにより家庭での意識付けにもつながる。)番組から学んだことを個人またはグループで発表させたり、他教科との連携(英語や社会や総合など)や外部の方(JICAや大学生)との連携を図ることで学びを深めさせる。

交流では、テレビ会議を実施しお互いの取組の内容を発表したり、電子黒板を活用した発表をしたりするなど効果的に情報機器を取り入れる。

6. 実践の成果

授業の中で、情報通信ネットワークシステムが安全に運用される基盤である情報セキュリティに関して、公共ネットワークの危険さと現在の懸念点を理解し、安全なコンピュータ環境についての理解を深めることができた。また学んだことを海外の学校と交流・プロジェクト学習を実践することにより、ネットワークリテラシーを育み、主体的に学ぶ意欲や問題発見・解決能力を身に付けることができた。大学の学生や外部の講師に授業や講演をしていただくことにより、情報活用の実践力を育むことができた。